

Rotary 茂原中央ロータリークラブ 会報

イマジン
ロータリー



会長 武田大輔 幹事 飛留間和紀



クラブ創立 1993.1.12
例会日 毎週火曜日/点鐘 12:30
例会場 茂原卸団地組合会館
事務局 TEL 0475-26-1515
FAX 0475-26-1516

Email mobarach.rc@gmail.com
<http://mobarachuo-rc.com>

- ★ ジェニファー E. ジョーンズ RI 会長
- ★ RID2790 小倉 純夫 ガバナー
- ★ 第7グループ 平野 一隆 ガバナー補佐



第31巻 通巻第1321号 第4号 例会通回第1326回

★クラブ会報委員長 片岡 太 ★副委員長 横堀 喜一郎

本日の例会プログラム

令和4年7月26日

点 鐘 武田 大輔 会長
ソング それでこそロータリー

会長挨拶 武田 大輔 会長
幹事報告 飛留間和紀 幹事

委員会報告
ニコニコ

平野一隆ガバナー補佐クラブ訪問

出席報告 担当委員会

7月19日例会

会長挨拶 武田 大輔 会長

皆さん、こんにちは。先週は梅雨が戻って来たような天気でしたが、昨日は暑くまた今日は雨模様といった天気です。皆さん体調を崩さぬようご注意ください。先週ですが、小沢会員に誘われてゴルフコンペに行きまして。そのコンペには中央ロータリーの方も何人かいらして、二つ後ろの組には杉江エレクトや荒井会員、山岸会員、中村健太会員がいました。雨も降っていて風も吹いておりあまりコンディションが良くない中でのゴルフでした。中央ロータリーの会員には、ゴルフをやられる方も多いのでご存知の方もいると思いますが、今はカートにモニターがついてコンペの参加者の上位成績が見えるようになっていました。午前中の7番か8番ホール位までは確認しませんでした。その後確認したら、後ろの中央の4人が上位の方に出てまして、杉江エレクトに関してましてはトップ争いをしていました。終わってみれば荒井会員と中村健太会員はベストスコアをマークし

ていました。私と小沢会員、山岸会員はいつも通りで杉江エレクトは後半失速してしまっていていつも通りだと思います。神明会員がいなくてよかったなと思いました。

話は変わりますが、先週の16日土曜日に成田空港南ロータリークラブの杉森会員が他界いたしました。私も2年位前に神明会員から紹介され、先日の3クラブでもパーティーで隣の席に座っていらしてお話もしました。

年齢も私と同じ歳だったこともあり、「またこれからもよろしくね!」という挨拶もしました。職業は解体屋さんでしたが、仕事の絡みというのはあんまりありませんでした。ですが、先月の13日にふらっと弊社の方に遊びにきていただいて、お土産にハマグリもいただきました。その時の様子では普通に元気だったんです。ロータリーであり同級生というか同じ年齢の方って少ないよねっていう話をしていて、また会った時よろしくということ、別れましたが、突然のことで大変驚いています。どうしてお亡くなりになったのか分かりませんが、謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

また、コロナ感染者もこのところ増えてますので、会員の皆様も気を付けてお過ごしください。

今日、安藤会員の卓話ということなんで会長挨拶は以上となります。ありがとうございます。

幹事報告 飛留間 和紀 幹事

●地区(回覧)

①ロータリー米山記念奨学委員会より、2022-23年度クラブ米山記念奨学委員長セミナーのご案内

日時:2022年8月27日(土曜日)12:30

受付開始13:00 点鐘15:00 閉会点鐘

場所:三井ガーデンホテル千葉 8月22日迄

- ②国際ロータリー 研修・開発担当部より、ラーニングセンターのクラブ役員向けのコースについてご案内
- ③ロータリー米山記念奨学会より、ハイライトよねやま 268号
- ④日本事務局・クラブ地区支援室より、2024-26年度RI理事候補者の推薦について
- ⑤ロータリー米山記念奨学委員会より、2021-22年度の寄付金のお礼及び実績報告
- 例会案内 (回覧)
特になし
- 会報受信 (回覧)
特になし
- その他 (回覧)
 - ・千葉県長生健康福祉センターより、恒例の薬物乱用防止の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び国連支援募金運動のご協力をお願い (再)

会員卓話 : 「自己紹介・私の生き立ち」



安藤 裕治 会員

茂原中央ロータリークラブの千葉石油(株)の安藤裕治です。どうぞよろしく願いいたします。

現在53歳、8月で54歳となります。家族構成は妻

と26歳の長男、24歳の長女、21歳の次女の5人です。なお、長女は都内で就職、次女は八王子で大学生活を送っておりますので、現在茂原の自宅には妻と長男との3人で会話の少ない環境で、妻の顔色を伺いながら幸せに暮らしております。娘、特に次女が帰省してきた時は家庭内の空気が一気に好転し、絶え間なく笑い声に包まれます。ここ数年間は娘達の存在を非常に大きく感じております。とは言え、離れていても誰一人コロナに感染することもなく、それぞれ元気に暮らしております。

それでは、私の生き立ちおよびその時に感じた事を思い出しながら、発表させていただきます。

1968年(昭和43年)8月23日、父ノブオ、母敬子の間で次男と生誕しました。幼少期の私ですが、実家にある数少ない写真を見る限り、透き通るような色白で唇が真っ赤だったという、誰もが女の子と間違えるような出で立ちでした。それが保育園から小学校中学年まで自分の中で軽いコンプレックスになっていた事もありました。保育園時代の事は殆ど覚えていないのですが、その時に会った友達、幼馴染とは今でもお酒を飲んだり連絡を取り合うなど仲良くさせて頂いております。

小学校に入学し、この頃から自分の本質が少しずつ見え隠れしてきます。まずは、基本的に落ち着きがなく集中力がない人見知りな子供でした。集中力がない事は後々まで引きずり、頑張り切れない自分を露呈することが社会人になってもありました。低学年時、集団的に先生に怒られ、最悪の場合は廊下に立たされる時など、ほぼ100%の確率で私が該当してました。例えその時に怒られる該当者であっても要領の良い子やずる賢い機転の効く子は、懲罰を逃れる事ができたのかもしれませんが、残念ながら当時の私にその術は一切なく、反省する学習能力もなかったので、されるがままに怒られ続けておりました。概ね褒められる事が3割以下、怒られる事が7割以上の割合だったと思います。しかし褒められる事が3割以下であっても、その褒められた事が自信となり、少しずつ成長していったのではと思っております。

しかし小学校中学年になると担任の先生との相性というものが現れてきます。

4年生の時、依怙鼻肩が激しい担任と対峙する事となりました。当然ながら私はドブプリと鼻肩されない方に該当しておりました。

出来の良い子・悪い子を初対面で頭ごなしに仕分けされ、出来の良い前者ばかりを褒め讃え、出来の悪い後者は殆ど評価せず、特に後者が発表で失敗した時など、クラスの面前でここぞとばかりに心折れるダメ出しを浴びせてくるような女性の担任でした。私を含め後者に属する劣等生達は何も認められる事もなく、必然的に自信と積極性と失っていきました。一つだけ当時のエピソード紹介します。小学校の時、定期的に各教科ごとのペーパーテストがありました。私自身、どの教科も中の下ぐらいの出来でしたが、算数だけはクラスの中でも上位ベスト3には入っているとの自負がありました。出来の悪い劣等生に該当していた私にとっては、ペーパーテストで100点をとることは快挙でしかありませんでした。そんな時、算数のペーパーテストで100点をとる事が出来ました。両親の笑顔も即座に浮かんできました。しかし、そのテストの答え合わせをしている時の事で、小学生生活で最も心が折れる出来事が起こりました。

そのテストの最終問題が私を含めクラスで正解者が2人しかいないような難問でした。

そのもう一人の正解者が解き方を解説しましたが、私とは解き方が違っておりました。私もその時に何もせずやり過ごせば良かったのですが、100点をとった優越感から調子に乗って、普段の低評価を挽回して褒めてもらおうと、わざわざ挙手までして、自分の解き方を解説をしてしまいました。ところが褒められるなどとんでもない話で、安藤の解き方は間違っていると担任に判断され5点の減点を喰らい

快挙の100点を剥奪されてしまいました。出過ぎた事しなければ良かったと本気で後悔しました。さすがにこれ以上ない心の折れようとショックで、授業が終わって休み時間になってもしばらく泣き続けていました。休み時間になるチャイムと同時に、後ろの席から板倉君というクラスメイトが慰めにきてくれました。「安藤、100点取り消されたのは残念だけど気にしちゃダメだ。次頑張ればいい」温かい励まし言葉を投げ掛けてくれました。彼も私と同じ、担任から評価されない劣等生側に属しており、同類を放っておけなかったのだと思います。実は板倉君、クラスで一番算数ができない生徒でした。「気にしちゃダメだ」とのあの言葉は、後から思うとどう解釈しているのか？わからない？これ以上ない複雑な気持ちも少しだけあったのは事実です。しかし、彼の気遣いは100点を剥奪された無念さ以上に鮮明に覚えており、今でも感謝しております。

このどうやっても評価されない劣等生だった4年生時の苦い経験を踏まえて、感じている事があります。この担任のように人の長所を見つけようともせず、自分本位に人を貶しめ、人の芽を摘むような人間には絶対になってはいけない。現在、会社で部下を預かる立場になっておりますが、これだけは強く心に留めております。

5年生になって、環境は好転していきます。文を書かせるのが大好きな男の先生が5年生担任となりました。夏休みの宿題に至っては通常の課題に加え、私のクラスだけ作文が7部に読書感想文が5部を宿題として課せられました。今では考えられない事ですね。しかし、そのおかげで元々得意だった算数に加え、文章を書くことが好きになり国語の成績が上がってきました。そして何よりその担任の指導が、依怙最頂のない公平な対応でクラスと向き合っておりました。正しければ褒めてくれますし、間違っていたら適正に正してくれる指導方法でした。彼は私の恩師の一人です。もう30年近く会っておらず、かなり歳もとったと思いますが、元気でいて頂ければと思っています。この頃から前からの課題だった運動音痴を改善しようという気持ちも高まってきました。理由は何て事ありません。女子の目が気になり始めた思春期の始まりだったからです。まず夏前に学校のソフトボール部に入部しました。入部初日、6年生レギュラー陣の運動能力の高さに圧倒された事を覚えています。当然、球拾いと声出しの毎日でしたが、何かを始めたという気持ちで充実した時間を過ごしていたと思います。

6年生になった時、ソフトボール部が郡市の指導でサッカー部へと変更になりました。元々父親の影響で野球が好きだった私はサッ

カーには殆ど興味がなく、辞めようかなとも思いましたが、しかし運動音痴はまだ克服しておらず、何より女子の目が気になる思春期の勢いでサッカーもやってみようという事になりました。夏場には運良くレギュラーに抜擢されたものの、練習試合をしていた頃に昔からの悪い習性である集中力のなさとある程度で妥協してしまう向上心のなさを露呈してしまい、本大会の秋にはレギュラーを外れてしまいました。最後の試合で15分だけ出場しましたが、全く覚えておりません。そんな集中力と向上心の欠如は、やがて大人になってプレイするゴルフにも災いしていると自覚しております。

富士見中学に入学し、今までに感じた事ない環境へと変わっていきます。学校事態、西小・二宮小・豊田小の混成。新しい友達も徐々に増えていきました。部活は、野球部も考えましたが、雨の日は練習が休みになるという単純な動機で、サッカー部に入部しました。入部当初は、まず使い慣れない敬語と先輩との上下関係に苦労しました。その当時、一年生からすると二年生を大人として崇め三年生に至っては口をきくのも阻かれる神様のような崇め方を余儀なくされました。もはや先生方よりもはるか上の存在認識でした。今考えたらおかしいと思いますが、当時のサッカー部と野球部はそれが普通でした。高校、大学、社会人になってからも上下関係はありましたが、中学の部活で学んだせいかな？さほど苦労はありませんでした。

中一の頃は、担任のなかば強引な学習指導で学力が飛躍的に伸びました。体力面もサッカー部の練習にどうにか着いていけるようになり、運動音痴も克服できる兆しも見えてきました。ところが中二の頃は、自分の悪い習性である集中力と向上心欠如がまたも露呈し、学力が急降下。部活に至っても新チームでせっかく獲得したレギュラーも外されてしまい、全くスイッチが入らず、しだいに学校に通うのも憂鬱になってきました。結局部活に至っては、自分が墮落する前は控えだった同級生に完全にレギュラーを奪われ、3年生になっても奪い返せませんでした。途中で退部する事はなかったものの、消化不良のまま3年間の部活が幕を閉じました。悔しいという気持ちは殆ど湧かないそんな時期でした。しかしながら学力については、このままではどこにも進学できないと焦りを感じ、部活が終わった7月後半から机に向かうようスイッチを入れました。一年生当時は長生高校を目指していましたが、現実的には到底無理な圏外に飛んでいました。受験2ヵ月前は大多喜高校を志望。しかし当落線上。1ヵ月前は一宮商業に絞り始めたその頃、茂原地区から初めて乗り入れできる事になった新設校の土気高校が

浮上し、担任・家族と相談した結果、土気高校に進学しました。土気高校に入学し、友達の範囲が地元だけでなく千葉地区まで広がり、比較的楽しい高校生活を送る事が出来ました。今でこそ、大半の高校の制服がブレザーとネクタイのスタイルとなり、当たり前のような姿になってきましたが、当時中学まで規制であった坊主頭から髪の毛が中途半端に伸び始めた茂原地区の土気高校一年生の男子にとってはこれほどまでに不自然で似合わないブレザーと赤ネクタイに馴染むまで、入学してから夏頃まで時間が掛かりました。

部活は、中学時代に消化不良で終わってしまった事を払拭するべく、敢えてサッカー部に入部しました。高校のサッカー部では創立2年目の新設校だったため、中学のような異常な上下関係はなく、楽しくサッカーができていました。ところがです。翌年の春に名門校からサッカー部の顧問が赴任してきました。スパルタ指導に加え、激情的な態度が災いし秋には同級生の10人いた部員が8人退部してしまいました。必然的に1・2年で部員が12人となり、二人ケガしたら試合もできないような始末でした。私も辞めたい気持ちは十二分にありましたが、ここで辞めたら後悔すると思い始め、どうにか3年夏の最後の県予選敗退まで部活を全うしました。最後の対戦高は市立船橋です。市船と対戦が決まってから、まともに勝つのは当然不可能との事で、0対0でPK戦に持ち込み、あわよくば勝とうという滅茶苦茶な作戦が真剣に立てられました。その日からの練習内容は殆どが守備練習にあてられ仕上げはひたすらPK練習に費やされ、10本中8本決められない者は、全体練習後に昭和の森まで5本の懲罰ランニングというメニューが一週間続きました。さすが6～7日目となると笑ってしまうくらい慣れてきて、PKも殆ど外すことなく懲罰も回避してました。決戦当日。台風まがいの大雨の中キックオフ。私は左サイドバックとして出場しました。、終始押されっぱなしで後半はスロイン以外でボールを触った記憶がない程、責め立てられました。結果0対3での敗戦。今でも良い思い出です。消化不良で終わった中学の部活と、ある程度やり切った高校の部活の約6年間。私にとって懸け替えないものです。高校のサッカー部の顧問ですが、当時あまり尊敬はしてなかったですが、未熟な私に忍耐力を植え付けて下さいました。私の恩師の一人として、結婚式にはスピーチをやって頂きました。部活も終わりいよいよ大学進学を目指し、その年の8月から初めて予備校に通う事になります。正直、高校に入ってテスト前以外は、あまり勉強してこなかった私は偏差値もさほど伸びる事もなく、それなりの受験勉強はしたものの、現役時は受験の経験を

積むとの認識だけで、一浪して上を目指すとのいう事も視野に入れていました。ところが3校受けた中の滑り止めだった中央学院大学に合格しました。合格にあたり進学するか？一年浪人してもっと上を目指すか？両親と話し合いましたが、一浪しても上の大学に合格する確証はないとの結論に達し、中央学院大学に進学する事にしました。千葉県我孫子の大学です。私が4年生の時に、中央学院が箱根駅伝に初出場し、以来30年以上毎年のようにシード校を争う知名度が定着しました。大学時代は、新しい友達にも恵まれて、ストレスの殆どない楽しい生活を送っておりました。勉強した記憶は殆どないですが、麻雀・アルバイト・趣味程度のバンド・スキー旅行など4年間穏やかな時間を過ごしました。

都内の大学にあるようなサークルやゼミなどなかったのも、あまり特筆するようなエピソードはありませんでした。その時に出会った友達とは、今でも連絡を取り合う間柄です。

4年の夏頃、来年就職するにあたり、家業を継ぐか？一般的に就職するかを決断する時期がきました。大学時代の長い休みの時に弊社の高師のスタンドでアルバイトをしたり、大学時代もレンタルビデオ店でアルバイトしていた事の拙い感触でサービス業面白いと感じていたのも、迷いなく家業を継ぐ事で決断をしました。学性時代のスタンドのアルバイトで当時の弊社の社員の方々に良くして頂いたのも理由の一つでした。こうして、翌年4月から家業を継ぐべく、研修生として昭和シェル石油に入社する事となります。

ここで家族について、触れさせていただきます。私には、3つ年上の昔から優秀な兄がおります。現在は弊社の代表取締役社長を務めております。私はそれまでの学生時代、優秀な兄を全く意識せずに歩んでまいりました。周囲から兄と比較されたことあったかと思いますが、全く気にしておりませんでした。両親からは、未だに兄と比較されるような事を言われた記憶がありません。恐らくですが比較する事で私に余計な重圧を掛けないよう配慮して頂いたのだと思います。優秀とは程遠い私を伸び伸びと育てて頂いた両親に感謝しております。しかし、現在はお互い家業を継ぐ立場として兄を意識しております。本来であれば、せめて中学校からでも兄を自分から意識し、追いつくよう努力し、もっと良い結果出しておれば、違った人生にもなったかとは思いますが、もはや仕方のないことです。

今後、今まで以上に力を合わせ互いに支え合い、会社の繁栄に繋げていきたいと思っています。

話は戻りますが、昭和シェル石油に研修生として入社した私は、環境を変えようと大阪支店の配属を申し出ました。

5月連休明けから初めて関西の地に足を踏み入れる事となりました。と言っても大阪支店には転勤族ばかりで社内には丸っきり関東の空気が漂い、確かに目の前には通天閣が見えたりしてはいましたが大阪で働いている感覚は殆どありませんでした。

それに加え、所詮は研修生、責任のある仕事は殆ど持たされず、退屈で不毛な日々が続き、いつしか悪い面の自分が顔を出し世間を舐めるような行動を露呈し、社会人としてここでは紹介できないような事も多々ありました。そんなどうしようもない自分に、研修生2年目、思いがけないある人との衝撃的な出会いが訪れるました。昭和シェル主催のセールス研修にサポートスタッフとして帯同していた私は、ある人物の目力と関西特有の明るい性格に心を奪われました。その人とは昭和シェル石油関西支店の子会社スタンドの店長さんでした。この人の元で働きたいと強く思い、昭和シェルを通じて希望を提出し翌年からその店長の元で2年間、研修生としてスタンドで働く事になりました。

ところが、大学4年間と昭和シェル事務所スタッフとして2年間楽ばかりしていた私にとっては、ほぼ毎日が洗礼の連続でした。当然の事、店長にも怒つかれ心が折れる事もありましたが、やがて彼のメリハリの効いた愛情のある指導に救われていきました。世間を舐めていた私にとってはこれ以上ない良薬でもあり、この人に認められたいと生まれて初めて思いようになりました。私の慢心で曲がった心根を叩き直して頂いた影響力のある最大の恩師です。感謝しかありません。当然の事、店長にも私の結婚式のスピーチを雄弁にやって頂きました。ついでに申し上げますが、女房とはこの研修先のスタンドで知り合いました。初対面はお互いに良くなかったですが、彼女もまた店長と同様なメリハリを持ち併せており、そして周囲を包む明るい性格に私の方が魅かれいきました。大阪での一年半の付き合いを経て、茂原に戻った年の平成7年10月に結婚しました。そして、26年が経ち冒頭で申し上げたような現在に至っております。彼女には、慣れない関東の地で3人の子育てをほぼ全面的にお願いしており、3人とも成人を過ぎて巣立っていきました。また、こんなデタラメな私を今も支えてくれている事に、深く感謝しております。その時にその時に出会った友達に、いつも支えられていた事に感謝しております。そして、何より丈夫な体に産んでくれた両親に感謝しております。

茂原に帰ってきてから26年経ちました。その間、いい事も悪い事も含め様々な事が起こりました。都度、社内で一丸となって、乗り越えてきました。過去の詳細は今回は伏せる事とします。問題は近い将来に迫ってくるカー

ボンニュートラルに備え、今後生き抜くために、これからの会社の方向性と方針、社内外の具体的な取組がより重要となってきます。現在、第一段階としてのミーティングをスタートさせたところです。従来の上位下脱の取組だけでなく、個々の社員が独自で発案した取組も実現出来て、それが成果へと繋がればこれ以上の強みはございません。まだ引退はしておりませんが、長年会社を盛り立て、支えて下さった。会長と副会長。商売の基盤を作って下さった弊社のOB(OG)と顧客の拡大に尽力して下さいましたベテラン社員と中堅社員の方々。そして今後を担う若手社員の方々に敬意を表しながら。社長とともに正しい方向へ導いていけるよう尽力していきます。



出席報告

例会日	会員	出席	MU	欠席	免除	出席率%
7/19	27	17	0	10	1	65.38
7/05	27	22	0	5	0	81.48

8月行事予定

8/02(火)	理事会 11時30分・移動例会「竹りん」 誕生祝3名(正林会員・林会員・安藤会員) ロータリーの友勉強会
8/09(火)	通常例会
8/16(火)	休会(定款適用)
8/23(火)	通常例会 外部卓話:茂原市長 田中豊彦様
8/30(火)	夜間移動例会

※新型コロナウイルス感染防止対策として
例会 点鐘 12時30分5分
閉会 13時
お弁当のお持ち帰りいたします。

ロータリーの五大奉仕部門と最新のロータリーの樹

1. クラブ奉仕部門 (Club Service)
2. 職業奉仕部門 (Vocational Service)
3. 社会奉仕部門 (Community Service)
4. 国際奉仕部門 (International Service)
5. 青少年奉仕 (Youth Service)

